

CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co., Ltd. 31/Oct/2016/vol.419

ウラジロ 学名: *Gleichenia japonica*

「ウラジロ」をみると、お正月を思い出す人は多いでしょう。ウラジロは、ウラジロ科の常緑性の大形のシダで穂長ともいいます。葉(羽片)がしだれるので「シダ」ともよばれ「歯垂る(しだる)」にあて、そして「齢垂る」にかけて長寿の意味をもたせ、お正月の注連飾りや供え餅の下敷に使われて、おめでたいことの象徴として使われてきました。他にも裏が白いことから、「心の潔白」と「白髪になるまで長生きする」ということにもかけられているともいわれ、専ら縁起の良い意味合いとして使われています。あるときは松茸の敷物として入っていたりもするようですが、それは飾りというよりも乾燥を防ぐいわば「道具」としての使い方でもあって、「ウラジロ」は昔からいかに人々の身近にあったものかがわかります。日本ではカインキとしてお料理の下に敷かれたり添えられたりすると、おめでたい印象も重なって何等かうれしい気分になることもあります。「ウラジロ」はその葉姿で、暖かい国や地域を彷彿とさせるオリエンタルな雰囲気と呼び起こしたりもします。そんなお洒落な演出に使用してみてもまた一層独特の雰囲気を出してくれるでしょう。